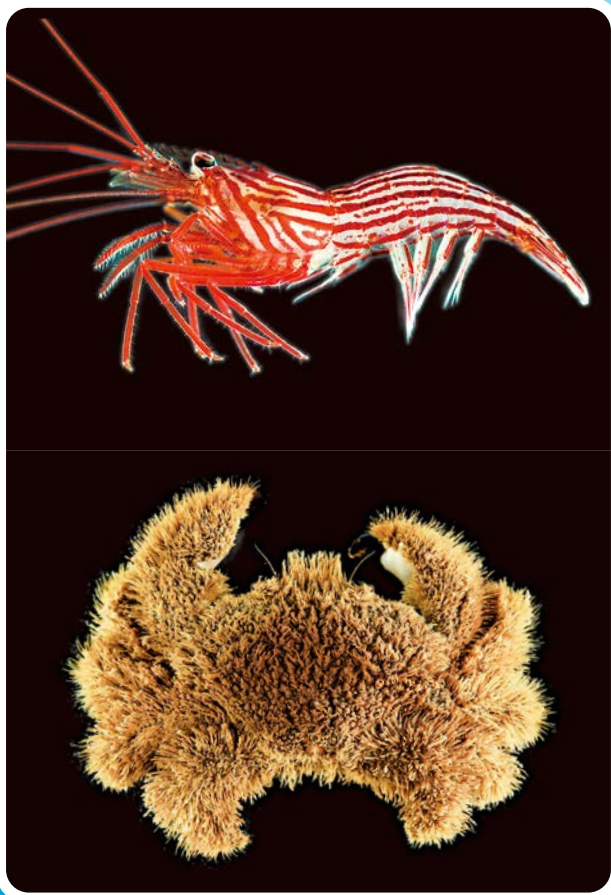


新磯でみられる エビ・ヤドカリ・カニ



千葉県立中央博物館分館
海の博物館

はじめに

千葉県立中央博物館 分館海の博物館では、千葉県の海辺にくらすさまざまな生きものを観察するためのツールとして、2001(平成13)年より「海の生きもの観察ノート」シリーズを製作してきました。これまでに魚類や貝類、海藻などのメジャーな生きものばかりでなく、ゴカイやヒラムシなどのあまり知られていない生きものにもスポットをあてて紹介し、現在18号まで発行されています。

エビやヤドカリ、カニなどの“甲殻類”については、『磯でみられるエビ・ヤドカリ・カニ』として2001年の1号で取り上げ、2014年にはその増刷版を出版しました。分館海の博物館では、1999(平成11)年の開館以降、「房総半島周辺の海洋生物相とその特徴」を明らかにするための活動を継続し、20年間の成果をまとめた論文集の中では当館周辺の潮間帯で見られる十脚甲殻類相が報告されました。今回、このような新たな知見も取り入れて改訂増補版を製作しました。

旧版同様、この冊子を片手に磯へでかけ、エビやカニに親しんでいただければ幸いです。

も く じ

はじめに.....	2
① エビ・ヤドカリ・カニってどんな生きもの？	3
② エビ・ヤドカリ・カニのさがし方	4
③ かたちを観察する	5
④ くらしを観察する	8
⑤ 磯でみられるエビ・ヤドカリ・カニ図鑑	10
⑥ 参考図書	26
⑦ 索引	27

表紙の説明

表：上	アカシマモエビ	(解説は15ページ)
下	ケブカガニ	(解説は21ページ)
裏：	スベスベマンジュウガニ	(解説は23ページ)

エビ・ヤドカリ・カニって どんな生きもの？

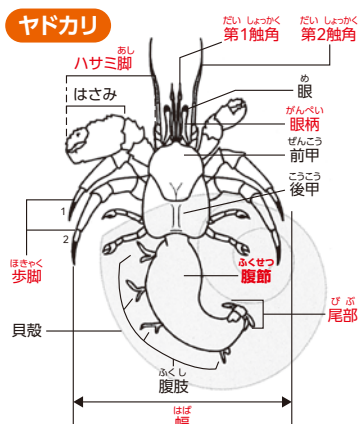
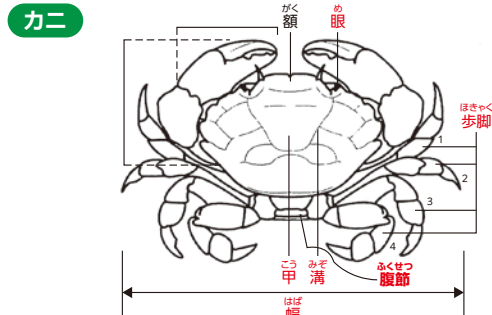
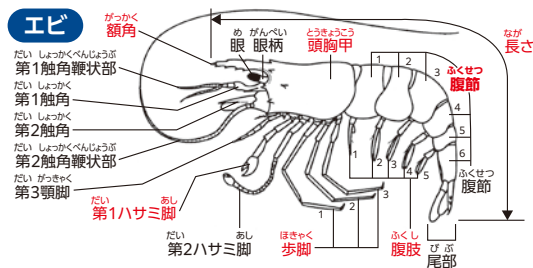
磯の人気者、エビやカニ。これらはまとめて「甲殻類」と呼ばれています。はじめに、甲殻類とはどのような生きものなのかを体のつくりから見てみましょう。

甲殻類は、「節足動物」というグループの中の一群です。節足動物は、体が頭部、胸部、腹部にはつきり分かれ、それぞれに付属肢（触角や脚など）をもつ動物の総称です。甲殻類は、頭部がいくつかの節によって構成されていることや、頭部にある触角や顎の数などの特徴によって、他の節足動物と区別できます。ちなみに、その他の節足動物には昆虫やクモ、ムカデなどがいます。

●エビ・ヤドカリ・カニの体のつくり

甲殻類は、甲や顎、脚のつくりによってさらにグループが分かります。磯で見られるエビ・ヤドカリ・カニはすべて「十脚類（目）」というグループに含まれます（10 ページの表参照）。胸部にあるハサミ脚や歩脚を「胸脚」といい、その数が左右あわせて 10 本であることが「十脚類」と呼ばれる由来です。

見た目の明らかなちがいがから、十脚類はエビ型・ヤドカリ型・カニ型に分けられます。これらの大きなちがいは「腹節」の形です。エビ型ではこれが発達し、ひとつひとつの節が目立ちます。ヤドカリ型では右側にねじれており、また、節がはっきりしません。カニ型では腹節が胸の下に折りたたまれ、薄くなっています。



エビ・ヤドカリ・カニの体のつくり

本文中で使用した体各部の名称は、赤字で示しています。

（このページの図は「エビ・カニガイドブック 伊豆諸島・八丈島の海から」（阪急コミュニケーションズ）を改変したものです。

②

エビ・ヤドカリ・カニのさがし方

観察の第一歩は、磯でエビやカニを“さがし出す”ことです。ちょっとしたコツさえつかめば、難しいことはありません。誰にでも簡単にエビやカニを見つけることができます。

潮だまりをのぞくと、目につくのは歩き回っているヤドカリばかりで、その他のエビやカニの姿はほとんど見えません。多くのエビやカニは物かげに隠れているためです。潮だまりの底にある石をそっとおこし、その下を見てみましょう。オウギガニの仲間やヒライソガニ(25ページ参照)を観察することができます。また、透明なイソスジエビやスジエビモドキ(11ページ参照)も、驚いて動きだすため、見つけやすくなります。さらに、潮だまりの中だけでなく、潮だまりをかこむ岩の割れ目ものぞいてみましょう。イワガニと目があうかも知れません。



石をおこしてみよう。この冊子で紹介しているほとんどの種類はこの方法で見つけたものです。さがした後は石をもとにもどしましょう。

★これも甲殻類

磯では、エビやカニ以外の甲殻類も観察することができます。岩に着いているフジツボ類は貝の仲間と思われがちですが、山型の殻の中は小さなエビのような形になっており、れっきとした甲殻類です。また、岩の上を集団ではっているフナムシも甲殻類の仲間です。これらは、体の節の数はエビやカニと同じですが、胸部に備わる脚の形とその役割が異なります。したがってどちらも十脚類とは別の甲殻類に含まれます。



フロフジツボ



フナムシの仲間

★危険! カニのはさみに注意

潮だまりにある大きめの石をおこすと、大きく鋭いはさみをもち、体の幅が10cmにもなるイシガニやベニツケガニなど(22ページ参照)を見つけることがあります。これらのカニは気が荒く、はさみを広げて攻撃するかまえをとります。不用意につかまえようとするとはさまれて思わぬケガをすることがありますので、十分注意をしながら観察しましょう。



大きくて鋭いフタバベニツケガニのはさみ

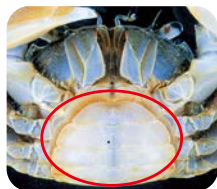
エビやカニを見つけたら、その形や色をよく観察してみましょう。オスとメスで形がちがっていたり、よく似ていても種類のちがうものがあります。

●オスとメスの見分け方

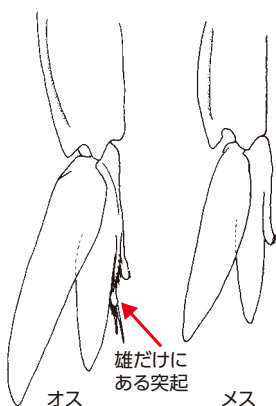
エビやカニは、オスとメスの形が少し異なります。潮だまりでの観察で、簡単にオスとメスを見分けることができるのはカニです。一般に「カニのふんどし」と呼ばれる腹節と尾部を見てみましょう。オスでは細長くなっているのに対し、メスでは幅広く、丸みを帯びています。エビとヤドカリの場合、オスとメスを区別するには顕微鏡を使う必要があります。野外での確認は困難ですが、参考までに触れておきましょう。潮だまりに多いイソスジエビやアシナガモエビモドキ(11、14 ページ参照)などのエビの場合は、第2腹肢のオスだけに見られる突起を確認します。またヤドカリでは、主に脚のつけ根(腹側)にある生殖孔の位置によってオスとメスを見分けます。



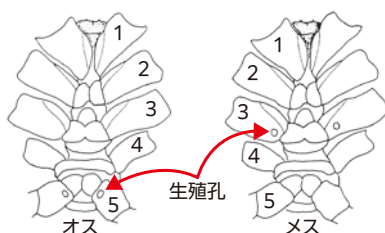
カニの腹節と尾部(オス)



カニの腹節と尾部(メス)



エビの第2腹肢



ヤドカリの脚の基部(腹側)
(番号は胸脚を表したもの)



エビ



ヤドカリ



カニ

たまごを抱えているメス

★たまごをもったメス

磯にすむエビやカニのメスは、こどもがたまごの中である程度成長するまで、たまごを腹節に抱えています。たまごを抱えているエビやカニを磯で見つけたら、それは間違いなくメスです。ただし、ヤドカリの場合、貝の中に腹節が隠れているので、貝から出さないとたまごの有無は確認できません。

●カニではないカニダマシ

食材として馴染みの深いタラバガニやハナサキガニはカニのような格好をしていますが、エビ・ヤドカリ・カニと分けた場合、カニよりもヤドカリに近い仲間です。潮だまりでも、イソカニダマシやコブカニダマシ(18ページ参照)というヤドカリに近いカニ型の甲殻類を観察することができます。カニには左右のはさみの後ろに歩くための脚がそれぞれ4本ずつありますが、カニダマシでは3本ずつしか見えません。

これはいちばん後ろ(5番目)の脚がとて^{びふ}も短く、折りたたまれているためです。また、腹側を観察すると、尾部(腹節の先端)の形はカニと明らかに異なります。これらの特徴から、カニダマシはカニよりもヤドカリに近いとされています。



腹側からみたイソカニダマシ
(番号は歩脚の数を表したもの)

●潮だまりのヤドカリには二つのグループがある

潮だまりでみられる貝を背負うヤドカリは、左右のハサミ脚の大きさを比較することで二つの「科」に分けられます。「科」とはよく似た種類どうしをまとめた、生物の分類単位のひとつです。二つの科のうちのひとつは、左右のハサミ脚の大きさがほぼ同じか、左側のハサミ脚が右側に比べて大きいものです。これらはヤドカリ科です。もうひとつは、右側のハサミ脚が左側に比べて明らかに大きいもので、これらはホンヤドカリ科です。まずは左右のハサミ脚の大きさを比較して、どちらの科に含まれるのかを見分けると、ヤドカリの名前調べがより簡単になります。



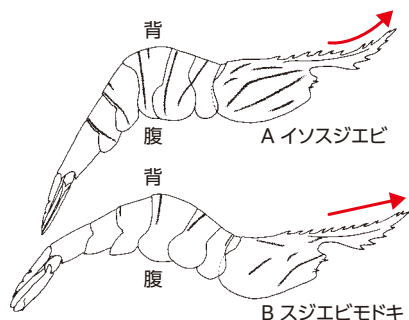
ヤドカリ科
左右のハサミ脚の大きさがほぼ同じ



ホンヤドカリ科
右側のハサミ脚が明らかに大きい

●よく似た種類の見分け方

磯には、じっくり観察してみないと種類を見あやまってしまう、似たもの同志のエビやカニがいます。ここでは、イソスジエビとスジエビモドキ(11 ページ参照)を例として見分け方をみてみましょう。これらは、潮だまりの中で普通にみられる、長さ3~4cm ほどのガラス細工のように透明なエビです。透明な容器などに入れて横からみると、体に黒いしま模様が入っていることがわかります。しまの数や入り方をよく観察してみましょう。しまが密にならび、その中の数本が背中から腹がわまでのびているのがイソスジエビです。しまがまばらで、背中から腹がわまでのびていないものがスジエビモドキです。さらによく比較すると、イソスジエビでは額角^{がっかく}の先が上を向いて曲がっているのに対し、スジエビモドキではほぼまっすぐ前を向いています。



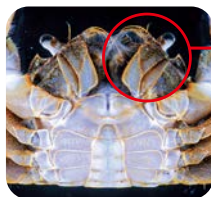
イソスジエビとスジエビモドキの
しま模様と額角のちがい

●カラーバリエーション

イソスジエビとスジエビモドキの例とは逆に、磯には同じ種類なのにまったく異なった模様を持っている甲殻類もいます。磯で最も数の多いカニ、ヒライソガニ^{きわ}がそのひとつです。ヒライソガニは、波打ち際や潮だまりの底の石の下に隠れているカニで、狭い範囲の中でたくさん見られます。その色彩は、甲が白いもの、全体的に灰色のものなど、さまざまです。このカニがすんでいるところにはいろいろな色をした小石や砂利があり、ヒライソガニはこれにカモフラージュするために一匹一匹違った模様になっていると考えられています。模様だけを見ると別の種類のようにですが、甲が平らなことをはじめ形はすべて同じです。判断に困ったときは、第3顎脚^{がっきやく}という節を見て下さい。斜めの関節を確認できれば、まちがいにヒライソガニです。このほか、オウギガニやトガリオウギガニにも同じ種類で模様が大きくちがうものがあります。



さまざまな色をもつヒライソガニ



第3顎脚に斜めの関節がある(矢印)

4

くらしを観察する

潮だまりでは、身を守る知恵や成長の様子など、エビやカニの生活をかいま見ることができます。彼らのくらしぶりに注目しながら観察してみましょう。

●カモフラージュを見やぶろう



海藻をつけた状態から



海藻を
取り除くと…



輪郭がはっきりして
カニであることがわかります

潮だまりの中の岩や壁面などにびっしりはえている海藻をよく観察してみましょう。幅 4cm くらいのイソクズガニ (21 ページ参照) がいることがあります。このカニは甲や脚に海藻の切れはしをつけ、海藻の上でじっとしています。海藻がはえた潮だまりの一部になりきっている、カモフラージュの達人です。

ぎ し

●擬死を観察しよう

潮だまりにすむオウギガニの仲間は、大きさや甲の形、色彩が石ころにそっくりです。これらのカニを手にとると、はさみや脚をお腹のほうに折りたたみ、死んだように動かなくなります。これを“擬死”といい、自分の体をより石ころらしく見せる、身を守るための手段のひとつと考えられています。オウギガニやトガリオウギガニ (23、24 ページ参照) を見つけたときは、手のひらにのせて擬死を観察してみましょう。



擬死をするオウギガニ

●脱皮殻を観察しよう

潮だまりなどで生きものを探していると、カニの死がいのようなものを見つかることがあります。これらの多くは死がいではなく、カニの脱皮殻です。エビやカニは成長の過程で脱皮によって何度も古い殻を脱ぎ捨てます。眼や脚のひとつひとつまでうまく脱ぎ捨てていますが、手にとって甲の後ろあたりをめくってみると、きれいに中身がないので、すぐに脱皮殻であることがわかります。



オウギガニの脱皮殻

●テッポウエビの音を聞こう

磯で耳をすますと、「パチン、パチン」という音を聞くことができます。これは、テッポウエビの仲間が身の危険を感じて敵をおどかす時などに鳴らす音です。この仲間は、第1ハサミ脚のうち、特殊な仕組みをもつ大きなほうのハサミを使って音を出します。潮だまりの石の下をすばやくはい回る、イソテッポウエビやマダラテッポウエビ(12、13 ページ参照)を容器などに入れて、少しエビをつついてみましょう。小さなエビが出すものすごい音に驚かされます。



大きな音を出す
マダラテッポウエビのはさみ

●ヤドカリの行動を観察しよう

潮だまりでは、ヤドカリが別のヤドカリをかかえ込んでいる姿を見かけることがあります。これは、かかえ込んでいるヤドカリが相手を見殻から追い出し、自分がその殻に入り込もうとしているところです。ヤドカリは体の成長にあわせて貝殻を換えていきます。ちょうどいい空の貝殻が見つからないと、すでに別のヤドカリが使っている殻を奪おうとします。その際相手をかかえ込み、自分の殻を相手に強くぶつけます。相手がたまらず出てしまい、ねらった貝殻の入手に成功した場合、追い出されたほうは相手が使っていたお古の殻に引越します。殻の交換です。

また、ヤドカリが別のヤドカリを見殻ごとつかんで歩き回る姿を観察することもあります。つかんでいるほうはおスで、運ばれているほうはメスです。これは他のおスに取られないよう、メスを確保するための行動で、「交尾前ガーディング」と呼ばれています。磯で最も数の多いホンヤドカリの場合、冬場によくみられます。



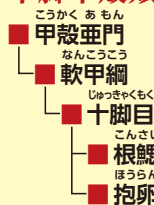
ホンヤドカリの
交尾前ガーディング

5

磯でみられる エビ・ヤドカリ・カニ図鑑

磯にはたくさんの種類のエビやヤドカリ、カニがいます。ここではそのうち、海の博物館の観察会でよく見られる種類を紹介します。それぞれの種類について、標準和名、科名、学名、観察の際に役立つ特徴や生息場所、磯でよく見られる大きさ、日本国内での分布範囲が記されています。体の各部の名称や大きさのめやすは3ページの図を参照して下さい。

十脚甲殻類の分類単位



「綱」や「目」、「亜目」などは、分類単位を表す単語です。なお本冊子で紹介しているエビやカニは、すべて抱卵亜目に含まれています。

学名は次のサイトに従いました。

WoRMS(World Register of Marine Species) <https://www.marinespecies.org> (2025年1月25日)

エビの仲間

■ サラサエビ(サラサエビ科)

学名 *Rhynchocinetes uritai* Kubo, 1942

特徴 複雑な赤いしまと白い輪紋をもつ美しいエビです。潮下帯の石の下に群れており、大潮の干潮時に観察できます。オスからメスに性転換する「雄性先熟型雌雄同体」の種類であることが知られています。

長さ 約 4cm

分布 秋田県以南の日本各地



■ヤイトサラサエビ(サラサエビ科)

学名 *Rhynchocinetes conspiciocellus* Okuno & Takeda, 1992

特徴 複雑な赤いしまと白い輪紋をもつことでサラサエビに似ていますが、第3腹節の背面に暗褐色の円紋あんかつしよくを持つことで異なります。また、大型のオスでは第3顎脚が長く伸び、第1ハサミ脚が頑強になることも特徴です。

長さ 約 5cm

分布 房総半島以南の南日本



■イソスジエビ(テナガエビ科)

学名 *Palaemon pacificus* (Stimpson, 1860)

特徴 体は透明で、甲では斜めに、腹節では横向きに黒く、細いしまが走っています。額角の先端はやや上向きに曲がっています(7ページ参照)。潮だまりの石や海藻のかげにすんでいます。

長さ 約 3cm

分布 北海道以南の日本各地



■スジエビモドキ(テナガエビ科)

学名 *Palaemon serrifer* (Stimpson, 1860)

特徴 模様や生息場所がイソスジエビと似ていますが、腹節を走るしまが少なく、短いことで区別できます。また、額角の先端がほぼまっすぐ前を向いていることもイソスジエビとのちがいです(7ページ参照)。

長さ 約 3cm

分布 北海道以南の日本各地



■テナガカクレエビ(テナガエビ科)

学名 *Cuapetes grandis* (Stimpson, 1860)

特徴 体はやや褐色を帯びた透明で、頭胸甲の側部に数本の赤い縞が斜走^{しゃそう}します。腹節には目立った斑紋はありません。潮だまりの底にある石の陰などにくらしており、透明な体は背景によく溶け込んでいます。

長さ 約 2cm

分布 房総半島以南の南日本



■ヨコシマエビ(テナガエビ科)

学名 *Gnathophyllum americanum* Guérin-Ménéville, 1855

特徴 ずんぐりした体型のエビです。体の地色は緑褐色で、多数の細い淡色の横しまで覆われます。ハサミ脚や歩脚にはオレンジ色の横しまがあります。潮だまりを囲む岩の亀裂^{きれつ}内などに隠れています。

長さ 約 1.5cm

分布 房総半島以南の南日本



■インソテッポウエビ(テッポウエビ科)

学名 *Alpheus* sp.

特徴 腹節の地色は白く、幅の広い横向きの黒帯があります。この模様によって、磯にすむ他のテッポウエビの仲間と区別できます。第1ハサミ脚の片方が大きく、これで大きな音を出します。石の下にすんでいます。

長さ 約 3cm

分布 山形県以南の日本各地



■マダラテッポウエビ(テッポウエビ科)

学名 *Alpheus pacificus* Dana, 1852

特徴 体の地色は褐色や淡緑色などさまざまです。腹節では淡い斑紋がたてに列を作っています。第1ハサミ脚の片方が大きく、これで大きな音を出します。潮だまりの石の下にすんでいます。

長さ 約5cm

分布 房総半島以南の南日本



■ムラサキヤドリエビ(テッポウエビ科)

学名 *Arete indicus* Coutière, 1903

特徴 常にムラサキウニというウニのとげの間にすんでいます。体は全体的に濃い紫色で、背中の中心線上には淡い線がたてに走っています。テッポウエビの仲間ですが、音を出すことはできません。

長さ 約1cm

分布 房総半島以南の南日本



■セジロムラサキエビ(テッポウエビ科)

学名 *Athanas japonicus* Kubo, 1936

特徴 体の地色は赤紫色で、背中の中心線上には太い^{たんおうしょく}淡黄色の線がたてに走っています。潮だまりの石の下にすんでいます。テッポウエビの仲間ですが、音を出すことはできません。

長さ 約1cm

分布 宮城県以南の日本各地



■テッポウエビモドキ(テッポウエビ科)

学名 *Betaeus granulimanus* Yokoya, 1927

特徴 全体的に緑褐色で、第1はさみ脚は細かいつぶ状の突起で覆われています。この突起によって、磯にすむ他のテッポウエビの仲間と区別できます。潮だまりの石の下にすんでいます。この種類も音を出すことはできません。

長さ 約5cm

分布 房総半島以南の南日本



■ナガレモエビ(モエビ科)

学名 *Hippolyte acuta* (Stimpson, 1860)

特徴 全体的に黄褐色や緑褐色で、点やしまなどの模様はありません。潮間帯に繁茂する海藻やアマモの中にすんでおり、肉眼で探し出すのが難しいエビです。

長さ 約1cm

分布 房総半島以南の南日本



■アシナガモエビモドキ (ヒメサンゴモエビ科)

学名 *Heptacarpus futilirostris* (Spence Bate, 1888)

特徴 体の地色は赤褐色や淡緑色などさまざまです。頭胸甲には赤い点が斜めに列を作っています。脚には茶色いしま模様があります。潮だまりの石のかげなどにすんでおり、特に春先にたくさん見られます。

長さ 約4cm

分布 房総半島以南の南日本



■アカシマモエビ(ヒゲナガモエビ科)

学名 *Lysmata vittata* (Stimpson, 1860)

特徴 体は透明で、頭部から尾部にかけて多数の細い赤色のしま模様で覆われます。細くて長い触角や脚を持ちます。潮だまりの大きな石の下などにすんでいます。

長さ 約 5cm

分布 銚子以南の南日本



■トゲエビジャコ(エビジャコ科)

学名 *Syncranton angusticauda* (De Haan, 1849)

特徴 頭胸甲に低い隆起をもつ、ややずんぐりしたエビです。頭胸甲と体の後方は緑褐色で、腹節の大部分は淡い色をしています。潮だまりの中でも砂のたまった場所を好みます。

長さ 約 3cm

分布 北海道以南の日本各地



アナエビの仲間

■スナモグリ(スナモグリ科)

学名 *Neotrypaea petalura* (Stimpson, 1860)

特徴 体は柔らかくて細長く、全体的に白色を帯びた透明です。ハサミ脚の片方だけが頑強になります。潮だまりの中でも砂のたまった場所の石の下を好みます。

長さ 約 5cm

分布 北海道以南の日本各地



ヤドカリの仲間

■イソヨコバサミ(ヤドカリ科)

学名 *Clibanarius virescens* (Krauss, 1843)

特徴 左右のハサミ脚の長さはほぼ同じで、ハサミ脚と歩脚は緑褐色で、この先端は黄色を帯びています。潮だまりではごく普通に見られますが、驚くと貝殻の奥まで引っこんでしまうため、しばらく待たないと特徴である脚の模様は確認できません。

幅 約 3cm

分布 房総半島以南の南日本



■ケブカヒメヨコバサミ(ヤドカリ科)

学名 *Paguristes ortmanni* Miyake, 1978

特徴 左右のハサミ脚の長さはほぼ同じです。ハサミ脚と歩脚はくすんだオレンジ色で、毛がたくさんはえています。眼柄には茶色^{がんぺい}いたての線が走っています。

幅 約 3cm

分布 北海道以南の日本各地



■ベニワモンヤドカリ(ヤドカリ科)

学名 *Ciliopagurus strigatus* (Herbst, 1804)

特徴 左右のハサミ脚の長さはほぼ同じです。ハサミ脚と歩脚にはたくさんの朱色とオレンジ色の横しまがあります。体は平たく、イモガイ類のように殻口の狭い巻貝を利用します。

幅 約 3cm

分布 房総半島以南の南日本



■ホンヤドカリ(ホンヤドカリ科)

学名 *Pagurus filholi* (De Man, 1887)

特徴 ハサミ脚や歩脚は緑褐色で、ハサミ脚の先端は淡い色をしています。歩脚の先端は黒く、その手前によく目立つ白い部分があります。イソヨコバサミとともに、潮だまりでは数の多いヤドカリです。

幅 約 2cm

分布 北海道以南の日本各地



■ホシゾラホンヤドカリ (ホンヤドカリ科)

学名 *Pagurus maculosus* Komai & Imafuku, 1996

特徴 ハサミ脚や歩脚の地色は褐色で、青白い点が列をなしています。ハサミ脚には毛がたくさんはえています。第1、第2触角ともオレンジ色でよく目立ちます。

幅 約 2cm

分布 宮城県以南の日本各地



■クロシマホンヤドカリ (ホンヤドカリ科)

学名 *Pagurus nigrivittatus* Komai, 2003

特徴 ハサミ脚は茶色で、薄い紫色の細かい突起に覆われています。歩脚には数本の褐色のたてじまがあります。この歩脚の模様によって、磯にすむ他のヤドカリと区別できます。

幅 約 2cm

分布 房総半島以南の南日本



■イソカニダマシ(カニダマシ科)

学名 *Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849)

特徴 カニ型をしたヤドカリの仲間の中では、磯で最もよく見られる種類です。全体的に黒っぽいものが多く、歩脚は黒と白のしま模様です。石の下におり、石をおこすとすばやくかげになる方へ逃げます。

幅 約 3cm

分布 青森県以南の日本各地



■オオアカハラ(カニダマシ科)

学名 *Petrolisthes coccineus* (Owen, 1839)

特徴 イソカニダマシに似ていますが、より大型で、全体的に赤味の強いカニ型をしたヤドカリの仲間です。ハサミ脚基部の前縁にトゲが並ぶことでも異なります。石の下にすんでいます。

幅 約 3cm

分布 房総半島以南の南日本



■コブカニダマシ(カニダマシ科)

学名 *Pachycheles stevensii* Stimpson, 1858

特徴 全体的に紫を帯びた灰色で、ハサミ脚は左右で大きさが異なります。ハサミには細かいつぶ状の突起が列をなしおり、歩脚には毛がたくさんはえています。イソカニダマシとはハサミの突起や色彩で区別できます。石の下にすんでいます。

幅 約 3cm

分布 青森県以南の日本各地



カニの仲間

■フワイカムリ(カイカムリ科)

学名 *Stimdromia fukuii* (Sakai, 1936)

特徴 カイメンを背負って全体を隠しているため、カニには見えません。カニそのものは黄褐色で、甲は半球形で目立ったトゲなどはありません。歩脚の後方2対はカイメンを背負うために短くなっています。

幅 約3cm

分布 房総半島以南の南日本



■イボイワオウギガニ(イワオウギガニ科)

学名 *Eriphia ferox* Koh & Ng, 2008

特徴 眼は赤く、甲は丸みのある六角形で、細かいつぶ状の突起で覆われています。ハサミ脚は強大で、左右で大きさが異なり、表面には短いとげが密生しています。水面より高い位置の、岩の割れ目などに隠れています。

幅 約7cm

分布 房総半島以南の南日本



■カネココブシ(コブシガニ科)

学名 *Philyra kanekoi* Sakai, 1934

特徴 甲はほぼ円形で、背中の中央部がやや山なりに盛り上がります。その両側は浅くくぼんでいます。甲の色はほぼ一様に緑褐色や、白と黒の雲紋模様うんもんのものなど、個体によって差があります。潮だまりの中でも砂利のたまった場所を好みます。

幅 約2cm

分布 山形県以南の日本各地



■イッカクガニ(モガニ科)

学名 *Menaethius monoceros* (Latreille, 1825)

特徴 甲はほぼ三角形で、額角と、眼の上にあるとげが鋭く尖っているため、3本の角をもっているように見えます。全体的に緑褐色で、色の濃淡には個体差があります。石に生えた海藻の間などで見られます。

幅 約 3cm

分布 房総半島以南の南日本



■ヨツハモガニ(モガニ科)

学名 *Scyra quadridens* (De Haan, 1837)

特徴 甲は洋梨型で、横がわにはよく目立つトゲがはえています。体に海藻の切れはしなどをつけていることが多く、これを取り除くと甲の表面はなめらかです。潮だまりの石の下などで多く見られます。

幅 約 4cm

分布 北海道以南の日本各地



■ヒメソバガラガニ(ヤワラガニ科)

学名 *Elamena truncata* (Stimpson, 1858)

特徴 甲はほぼ円形で、その表面は平らです。細いハサミ脚や歩脚をもっています。全体的に黒味を帯びており、たいてい、甲にはよく目立つ白い紋があります。石にはえた海藻の間などで見られます。

幅 約 1cm

分布 房総半島以南の南日本



■ヤワラガニ(ヤワラガニ科)

学名 *Rhynchoplax messor* (Stimpson, 1858)

特徴 甲はほぼ円形で、へら状の額角が斜め上を向いてつき出しています。ハサミ脚や歩脚は細く、雄のはさみ脚は歩脚に比べて明らかに太くなります。潮だまりの中の海藻のかげなどで生活しています。

幅 約 1cm

分布 青森県以南の日本各地



■イソクズガニ(ケアシガニ科)

学名 *Tiarinia cornigera* (Latreille, 1825)

特徴 甲は洋梨型で、表面には海藻の切れはしやカイメン、ホヤのかけらなどをびっしりとつけています。これを取り除くと、甲の表面は細かいつづ状の突起に覆われています。海藻がはえた潮だまりの壁面などでじっとしています。

幅 約 3cm

分布 房総半島以南の南日本



■ケブカガニ(ケブカガニ科)

学名 *Pilumnus vespertilio* (Fabricius, 1793)

特徴 ハサミ脚先端の黒い爪の部分を除き、全身が黄褐色の長い剛毛で覆われ、まるでぬいぐるみのようです。甲やハサミ、脚の輪郭は見えません。南房総の磯でしばしば観察されます。

幅 約 5cm

分布 房総半島以南の南日本



■トラノオガニ(ケブカガニ科)

学名 *Pilumnopus pearsei* (Rathbun, 1932)

特徴 甲はほぼ楕円形で、ハサミ脚は左右で大きさが異なります。甲には、眼の後ろあたりに横に列をなした短い毛があります。ウミトラノオという海藻の根元にいることからこの名前がつけましたが、別の種類の海藻のおかげでもみられます。

幅 約 2cm

分布 房総半島以南の南日本



■イシガニ(ワタリガニ科)

学名 *Charybdis japonica* (A. Milne Edwards, 1861)

特徴 甲は扇形で、全体的に暗緑色と淡緑色のまだら模様をしています。眼と眼の間には先端のとがった6本の歯が並んでいます。ワタリガニ科の多くの種では、最後の歩脚の先端がオール状になっています。大きな石の下などにいます。

幅 約 10cm

分布 宮城県以南の日本各地



■ベニツケガニ(ワタリガニ科)

学名 *Thalamita pelsarti* Montgomery, 1931

特徴 眼と眼の間がイシガニに比べて広く、鮮やかな赤色で縁取られています。ここには6本の歯があります。甲は緑褐色で、歩脚はピンク色がかかっています。大きな石の下などに隠れています。

幅 約 10cm

分布 房総半島以南の南日本



■フタバベニツケガニ(ワタリガニ科)

学名 *Thalamita sima* H. Milne Edwards, 1834

特徴 眼と眼の間に目だった歯がないことでイシガニやベニツケガニと区別できます。全体的に褐色で、淡いまだら模様で覆われています。大きな石の下などに隠れています。

幅 約 8cm

分布 北海道以南の日本各地



■スベスベマンジュウガニ(オウギガニ科)

学名 *Atergatis floridus* (Linnaeus, 1767)

特徴 全体的に地色は暗褐色で、甲には淡い色のまだら模様があります。甲はほぼ楕円形で光沢があり、山なりに盛り上がっています。石の下でじっとしています。筋肉にフグ毒と同じ成分であるテトロドトキシンを保有しています。

幅 約 6cm

分布 房総半島以南の南日本



■オウギガニ(オウギガニ科)

学名 *Leptodius affinis* (De Haan, 1835)

特徴 甲はほぼ楕円形で、後ろがわには短い毛がたくさんはえています。表面は平らで、浅い溝が入っています。模様はさまざまで、明るい灰色や黒味の強いものなどがみられます。潮だまりの石をおこすと、この仲間の中で一番よく見られます。

幅 約 3cm

分布 房総半島以南の南日本



■トガリオウギガニ(オウギガニ科)

学名 *Neoxanthops truncatus* (De Haan, 1837)

特徴 オウギガニに似ていますが、眼と眼の間が前方につき出ていることで区別できます。この部分を腹(裏)がわからみると薄くなっており、より目立ちます。模様は個体によって大きく異なります。潮だまりの石の下などに隠れています。

幅 約 3cm

分布 青森県以南の日本各地



■ヒメオウギガニ(オウギガニ科)

学名 *Paraxanthias elegans* (Stimpson, 1858)

特徴 甲はほぼ楕円形で、ハサミ脚は左右で大きさが異なります。歩脚にはよく目立つ毛がたくさんはえています。模様は個体によって差がありますが、いずれも褐色を基本としています。石の下などに隠れています。

幅 約 3cm

分布 房総半島以南の南日本



■イワガニ(イワガニ科)

学名 *Pachygrapsus crassipes* Randall, 1840

特徴 甲はほぼ四角形で、褐色の横すじが走っています。大きなものでは、ハサミ脚や歩脚は赤味を帯びています。潮だまりの縁の、岩の隙間などに隠れており、水の中にいることはほとんどありません。

幅 約 5cm

分布 北海道以南の日本各地



■ ショウジンガニ(ショウジンガニ科)

学名 *Guinusia dentipes* (De Haan, 1835)

特徴 甲は丸みを帯びた四角形で、浅い溝が走り、細かいつぶ状の突起も見られます。ハサミ脚は細かいつぶ状の突起が列を作り、歩脚はとげが目立ちます。全体的に赤褐色をしています。千葉県南部では「いそっぴ」と呼ばれ、みそ汁などに入れて好んで食べられます。

幅 約 15cm

分布 房総半島以南の南日本



■ ヒライソガニ(モクズガニ科)

学名 *Gaetice depressus* (De Haan, 1833)

特徴 甲はほぼ四角形で、表面は平らです。オスのハサミ脚はかなり大きくなります。色彩はさまざまですが、甲や第3顎脚の形を観察すると、すべて同じ種類であることがわかります(7 ページ参照)。石の下などでごく普通に観察できます。

幅 約 4cm

分布 北海道以南の日本各地



■ イソガニ(モクズガニ科)

学名 *Hemigrapsus sanguineus* (De Haan, 1835)

特徴 全体的に緑と黒のまだら模様をしています。この模様は、さまざまな模様をもつヒライソガニには見られないため、両種を区別するときの特徴となります。また、甲がヒライソガニに比べてやや山なりに盛り上がります。石の下などに隠れています。

幅 約 5cm

分布 北海道以南の日本各地



● 名前を調べるための本(出版年順)

- 酒井 恒. 1976. 日本産蟹類. 461 pp.(和文), 251 pp.(図版). 講談社.
- 三宅貞祥. 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑(I). 261 pp. 保育社.
- 三宅貞祥. 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑(II). 277 pp. 保育社.
- 武田正倫. 1983. 原色甲殻類検索図鑑. 284 pp. 北隆館.
- 西村三郎(編著). 1995. 原色検索日本海岸動物図鑑[III]. 663 pp. 保育社.
- 財団法人千葉県史料研究財団(編). 2000. 千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物2 海の動物. 812 pp. 千葉県.
- 峯水 亮. 2000. ネイチャーガイド海の甲殻類. 344 pp. 文一総合出版.
- 加藤昌一・奥野淳児. 2001. エビ・カニガイドブッカー八丈島の海から-. 157 pp. 阪急コミュニケーションズ.
- 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 啓介・多留聖典. 2013. 干潟ベントスフィールド図鑑. 257 pp. 日本国際湿地保全連合.
- 有馬啓人. 2014. ネイチャーウォッチングガイドブック ヤドカリ. 223 pp. 文一総合出版.
- 渡部哲也. 2014. 海辺のエビ・ヤドカリ・カニハンドブック. 104 pp. 文一総合出版.
- 今原幸光(編著). 2023. 新 写真でわかる磯の生き物図鑑. 286 pp. 海文堂出版.

● 読み物(出版年順)

- 酒井 恒. 1980. 蟹 その生態の神秘. 299 pp. 講談社.
- 武田正倫. 1992. カニは横に歩くとは限らない. 236 pp. PHP研究所.
- 武田正倫. 1995. エビ・カニの繁殖戦略. 239 pp. 平凡社.
- 小菅文治. 2014. カニのつぶやきー海で見つけた共生の物語. 174 pp. 岩波書店.
- 和田恵次. 2017. 日本のカニ学ー川から海岸までの生態研究史ー. 173 pp. 東海大学出版部.
- 矢野 勲. 2021. エビはすごい カニもすごい(中公新書2677). 264 pp. 中央公論新社.
- 竹下文雄. 2022. カニの歌を聴け. ハクセンシオマネキの恋の駆け引き. 131 pp. 京都大学学術出版会.

● 千葉県および周辺水域の浅海性十脚甲殻類相をまとめた文献(出版年順)

- 池田 等・倉持卓司. 2004. 潮騒ガイドブック8. 葉山・芝崎ナチュラルリザーブ海洋生物図鑑(1)ーカニ類ー. 32 pp. 葉山しおさい博物館.
- 池田 等・倉持卓司. 2006. 潮騒ガイドブック10. 葉山・芝崎ナチュラルリザーブ海洋生物図鑑(3)ー甲殻類(エビ・ヤドカリ・フジツボほか)ー. 32 pp. 葉山しおさい博物館.
- 北嶋 円・伊藤寿茂・岩崎猛朗・富永早希・佐野真奈美・植田育男・村石健一・萩原清司. 2014. 江の島の潮間帯ヤドカリ類相. 神奈川自然誌資料(35): 17-24.
- 奥野淳児・村田明久・高山順子. 2021. 千葉県立中央博物館分館海の博物館所蔵標本に基づく千葉県勝浦市吉尾周辺の潮間帯産十脚甲殻類相(甲殻亜門: 軟甲綱). In: 川瀬裕司・柳 研介(編), 房総半島の海洋生物誌IIー分館海の博物館の研究成果に基づいてー, pp. 73-84. 千葉県立中央博物館研究報告特別号(11). 千葉県立中央博物館.

標準名

アカシマモエビ	15	スベスベマンジュウガニ	23
アシナガモエビモドキ	14	セジロムラサキエビ	13
イシガニ	22	テッポウエビモドキ	14
イソガニ	25	テナガククレエビ	12
イソカニダマシ	18	トガリオウギガニ	24
イソワズガニ	21	トゲエビジャコ	15
イソスジエビ	11	トラノオガニ	22
イソテッポウエビ	12	ナガレモエビ	14
イソヨコバサミ	16	ヒメオウギガニ	24
イッカクガニ	20	ヒメソバガラガニ	20
イボイワオウギガニ	19	ヒライソガニ	25
イワガニ	24	フクイカムリ	19
オウギガニ	23	フタババニツケガニ	23
オオアカハラ	18	ベニツケガニ	22
カネココブシ	19	ベニワモンヤドカリ	16
クロシマホンヤドカリ	17	ホシゾラホンヤドカリ	17
ケブカガニ	21	ホンヤドカリ	17
ケブカヒメヨコバサミ	16	マダラテッポウエビ	13
コブカニダマシ	18	ムラサキヤドリエビ	13
サラサエビ	10	ヤイトサラサエビ	11
ショウジンガニ	25	ヤワラガニ	21
スジエビモドキ	11	ヨコシマエビ	12
スナモグリ	15	ヨツハモガニ	20

学名

<i>Alpheus pacificus</i>	13	<i>Pachycheles stevensii</i>	18
<i>Alpheus</i> sp.	12	<i>Pachygrapsus crassipes</i>	24
<i>Arete indicus</i>	13	<i>Paguristes ortmanni</i>	16
<i>Atergatis floridus</i>	23	<i>Pagurus filholi</i>	17
<i>Athanas japonicus</i>	13	<i>Pagurus maculosus</i>	17
<i>Betaeus granulimanus</i>	14	<i>Pagurus nigrovittatus</i>	17
<i>Charybdis japonica</i>	22	<i>Palaemon pacificus</i>	11
<i>Ciliopagurus strigatus</i>	16	<i>Palaemon serrifer</i>	11
<i>Clibanarius virescens</i>	16	<i>Paraxanthias elegans</i>	24
<i>Cuapetes grandis</i>	12	<i>Petrolisthes coccineus</i>	18
<i>Elamena truncata</i>	20	<i>Petrolisthes japonicus</i>	18
<i>Eriphia ferox</i>	19	<i>Philyra kanekoi</i>	19
<i>Gaeticus depressus</i>	25	<i>Pilumnopus pearsei</i>	22
<i>Gnathophyllum americanum</i>	12	<i>Pilumnus vespertilio</i>	21
<i>Guinusia dentipes</i>	25	<i>Rhynchocinetes conspiciocellus</i>	11
<i>Hemigrapsus sanguineus</i>	25	<i>Rhynchocinetes uritai</i>	10
<i>Heptacarpus futilirostris</i>	14	<i>Rhynchoplax messor</i>	21
<i>Hippolyte acuta</i>	14	<i>Scyra quadridens</i>	20
<i>Leptodius affinis</i>	23	<i>Stimodromia fukuui</i>	19
<i>Lysmata vittate</i>	15	<i>Syncrangan angusticauda</i>	15
<i>Menaethius monoceros</i>	20	<i>Thalamita pelsarti</i>	22
<i>Neotrypaea petalura</i>	15	<i>Thalamita sima</i>	23
<i>Neoxanthops truncatus</i>	24	<i>Tiarinia cornigera</i>	21

海の生きもの観察ノート19

新 磯でみられるエビ・ヤドカリ・カニ

2025年(令和7年)3月25日発行

編集・執筆 奥野淳兒(千葉県立中央博物館 分館海の博物館主任上席研究員)

発行 千葉県立中央博物館 分館海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123 電話 0470-76-1133(代表)

(本誌掲載内容の無断転載は固くお断りします)

CMNH Field Guide Series No. 19

Guidebook to the decapod crustaceans inhabiting at intertidal rocky shores of Chiba Prefecture, Japan

Junji Okuno, Ph. D., 25 March 2025

Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba
123 Yoshio, Katsuura Chiba 299-5242, JAPAN

